

市政に対する

一般質問

シテイプロモーションを進める市の基本方針づくりを

あやせ未来会議 安藤多恵子

問 市は、今まで進めてきたシテイセールスをシテイプロモーションへと進化すべき時である。地域活性化担当が新設され、国の総合戦略とも相まって推進体制ができると思うが、職員の意識の浸透はどうか。最も大事な事は、市外への発信だけでなく、住民が綾瀬を知り、郷土愛を醸成す

ることだと思うが、親子で綾瀬を知る取り組みを考えているか。さらに、職員も、市に誇りや愛着を持てるよう機会づくりが必要ではないか。また、全庁的な取り組みや他団体の考え方を共有していくために基本方針を策定しないか。

答 関係各課や専門部会での施策検討の中では、市民や企業などと連携したシテイプロモーションに向け、職員の意識は高まっている。郷土愛を育む取り組みは、学校での授業やものづくり見学ツアーなど親子で参加できる多くの事業を実施している。職員には、市の魅力や強みを高めていくためのアイデアを出せるような、シテイプロモーション推進の基盤となる人材育成セミナーなどを開催していく。また、庁内関係課や市民団体との会議を立ち上げ、市民からの共感が得られるような指針などを策定していく。

（ほかに「いきいき元気な高齢者をふやす取り組みについて」「市民の意見集約を一層進めるために」を質問）



一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をたずねることができるものです。12月定例会では、12月10日・11日の本会議で18人の議員から質問が行われ、論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です（掲載は質問順、6ページまで続きます）。

児童・生徒の携帯電話の使用は制限を設けるべきでは

志政あやせ 古市 正

問 学力・学習状況調査の生活実態に関する調査結果により、本市の児童・生徒は、携帯電話、スマートフォンの使用時間が全国と比較して長いことが分かった。人を傷つける行為や深夜までに及ぶ長時間の使用は、児童・生徒の健全育成と家庭学習時間の確保という観点から看過できない

状態にある。本来は自主規制が望ましいが、利用を制限することも必要と考えるが、市は、この問題にどう取り組んでいくのか。また、携帯電話などの利用に関する啓発活動も継続していく必要があると思うが、市の考えはどうか。

答 スマートフォンの使用は家庭や個人で規制することが望ましいが、子どもたちにとってやめられない現状もあり、制限するルール作りが必要だと考えている。他の自治体では、PTA協議会などと連携して問題に取り組んでおり、本市でもPTA会長で組織するPTA連絡協議会と連携しながら、研究を進めていきたい。また、子どもたち自身が情報化社会の特性やネットワークを理解し、利用することが求められるため、子どもたちの利用状況も考えたルール作りやモラル育成にも取り組む必要があると考えている。

（ほかに「SSW（スクールソーシャルワーカー）について」「学力・学習状況調査について」を質問）

安心して子育てができるよう出産・子育て環境向上を

志政あやせ 金江 大志

問 現在策定を進めている市まち・ひと・しごと創生総合戦略には、基本目標の一つに、出産・子育て環境の向上が挙げられている。子育て世代への支援として、第二子以降へ紙おむつの給付を行うとのことだが、第一子から行わない理由は。さらに、子育て用品のレンタル料や購入費の助成

をどう考えているのか。また、子育て支援センターと（仮称）保健福祉センターに設置予定の子育て世代包括支援センターはどう連携するのか。アンケートによると、本市での子育てが難しいと感じている方の6割弱が、交通の不便を挙げている。公共交通機関の利用が難しい方への配慮は。

答 紙おむつの給付は、多子世帯の経済的負担軽減を図るため、第二子以降への給付としている。子育て用品はレンタル料助成を考慮しており、希望が多い品目に限定していきたい。また、子育て支援センターでの相談内容により、様々な機関からの支援が必要な場合は、子育て世代包括支援センターと連携を図り、子育ての孤立感や負担感の軽減を図っていく。バスの経路から離れている方や障がいのある方など、公共交通機関の利用が難しい方へは、移動サロンの実施している。今後、民間の保育所とも連携を強化するなど、身近で相談できる体制を組んでいきたい。

議案は、「このように審議されます」



市長や議員が提出

本会議で議案の提案説明

議案に対する質疑

所管委員会に付託（審査を委ねること）

委員会審査

本会議で委員会の審査結果を報告

報告に対する質疑

討論（賛成・反対）

採決（可決・否決）

市長に結果を送付

意見書は国・県など関係行政庁に提出

委員会では審査をしないもの